

■和田義盛 武將。鎌倉武士典型で源頼朝の武家政権確立最大の功勞者だったが、北条義時に叛旗を翻し、一族滅亡。 わだよしもり ・ ・ ・ ・ ・	1147＝ 生。三浦義明の嫡男で若死した義宗の長男。母は遊女玉。相模国の大豪族三浦氏の一族で、相模国三浦郡和田を本居とする。
保元の乱 ・ ・ 1156＝ 9歳：	
平治の乱 ・ ・ 1159＝12歳：	
・ ・ ・ ・ ・ 1165＝18歳：	
清盛太政大臣 1167＝20歳：	
・ ・ ・ ・ ・ 1174＝27歳：	
源氏一斉蜂起 1180＝33歳：	*源頼朝の挙兵に加わるため、一族とともに石橋山に向けて出陣するが、その途次頼朝の敗北を知り、やむをえず本拠三浦郡衣笠城に帰城する。しかし間もなく当城も平氏方軍兵の攻撃を受けるところとなり、海上から安房国に脱出。同じく敗走してきた頼朝と合流、これ以後はつねに頼朝に近侍し、その信頼を得ることとなった。その後、東関東の組織化に成功した頼朝は鎌倉に居を定め、挙兵以来はじめての勲賞を行うが、このとき義盛も北条時政・三浦義澄と並んで勲功賞を受けている。ついで常陸国の佐竹氏追討のため出陣、帰還後、急速に拡大した鎌倉政権における御家人統制のための機関として侍所が設置されると、初代の別当に補任された。
後鳥羽天皇 ・ ・ ・ ・ ・ 1183＝36歳： ・ ・ ・ ・ ・ 1184＝37歳：	木曾義仲および平氏追討のため大將軍源範頼に属して出陣。一の谷の合戦後、いったん鎌倉に帰還するが、再び西海に向けて出陣した。しかし長期にわたる出陣で、義盛をはじめ軍兵の多くの7気は衰え、戦果も芳しくなかったため、義盛は侍所別当として頼朝の譴責を受けることとなった。
平氏滅亡 ・ ・ 1185＝38歳：	平氏追討後、
奥州藤原滅亡 1189＝42歳：	奥州征伐では、侍所別当として所司梶原景時とともに軍兵の召集に努め、また、みずから武蔵・上野両国の武士団を率いて出陣。阿津賀志山の戦いでは藤原国衡を討つなどの軍功をあげた。
源頼朝上洛 ・ 1190＝43歳：	頼朝の上洛に随行、左衛門少尉に任官した。
鎌倉幕府始 ・ 1192＝45歳：	頼朝の信任厚かったが、直情径行で、一時侍所別当の職は能吏梶原景時に奪われた。
東大寺再建完 1195＝48歳：	再度の頼朝上洛に際しては、先陣随兵として供奉、上洛中は洛中警固を奉行するなど、定められた諸事の奉行を忠実に実行。頼朝の信頼も厚く、初度の上洛の際にはその推挙によって左衛門尉にも任官した。
源頼朝没 ・ ・ 1199＝52歳：	*頼朝が急死し頼家はその跡を襲うと、北条氏の実権掌握に積極的に加担。同年、北条氏とはかつて専断的行動の目立つ頼家の親裁権を停止し、宿老13名による合議機関を発足させ、そのメンバーの1人となった。また諸御家人とともに、前々から侍所の職務を二分してきた梶原景時を追却、その地位をいっそう強化することに成功している。
・ ・ ・ ・ ・ 1201＝54歳：	
執権政治始 ・ 1203＝56歳：	比企氏追討事件に際しては、頼家から北条氏追討を命じられたにもかかわらず、逆に時政に内通し、北条氏と協調関係を続けている。
新古今集 ・ ・ 1205＝58歳：	*しかし、牧氏陰謀事件が発覚、北条時政が失脚すると、幕府創設以来の功臣であり、またこの時期における幕閣の最長老でもあり、加えて侍所別当という職掌上からも、御家人社会に隠然たる勢力を誇示するようになった。このため時政の跡を継いだ義時が北条氏の独裁的権力の確立をはかるようになると、両者の間には隔絶が生ずることとなった。
・ ・ ・ ・ ・ 1209＝62歳： ・ ・ ・ ・ ・ 1210＝63歳：	上総国司就任を強く望んだが、政子の反対により実現しなかった。
北条覇権確立 1213＝66歳：	この間、しだいに北条氏との対立が激化、
	*義盛の子義直・義重および甥の胤長が泉親衡の北条義時暗殺計画に加担していたことが露頭するに及び、両者の対立は表面化し、ついに挙兵するに至ったが、三浦氏の裏切りにあい敗北、一族もろとも滅亡。